

科目名	社会哲学特講	担当者	サイトウ ヨシユキ 齋藤 宜之	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>ひとは自分の生きている時代や社会のあり方こそが「普通」であり、歴史で学ぶような過去の時代にはのみ諸々の「激動的」な出来事があったとか、古い時代における社会は「未発達」のそれであるなどと思いがちです。しかし、100年後の歴史家は、21世紀初頭という我々が生きるこの時代についていかなる評価を下すことになるでしょうか。「社会哲学」とは、人間・社会・時代のあり方を、常識的通念を一度は相対化したうえで、原理的なレベルで考察する学問です。この科目での学修を通じて得てほしいものは、このような巨視的な視点から物事を見渡すための教養と思考力です。</p>		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】 論理的・批判的思考力：得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。問題発見・解決力：事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 テキスト読解には文脈を把握するということが重要なので、継続的にテキストに触れること。関連する文献についても、積極的に参照すること。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 テキストおよび関連文献の読解に25時間以上、レポート提出とそれへのコメントを受けての再提出に20時間以上を目安とする。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba folio 等を使ったインタラクティブな添削指導を実施する。</p> <p>【学修方略（LS）】 レポートの提出とそれに対するコメント、執筆過程におけるメール等を通じての質疑応答。</p>		
スケジュール	<p>「基本教材1」のレポートの草稿を8月下旬までに提出し、それに対するコメントを反映させた最終稿を9月中旬までに提出すること。</p> <p>「基本教材2」のレポートの草稿は12月中旬までに提出し、それに対するコメントを反映させた最終稿を1月上旬までに提出すること。</p> <p>「レポート課題」の1と2を、同時に提出するか別時期に提出するかは自由とする。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70%	テキストの内容を正確に理解したうえで、自らの頭で考え抜かれた論述を高く評価します。
	平常評価	30%	メール等でのやりとりにおける積極性を高く評価します。
履修者への要望	<p>まずはテキストを虚心に読み込み、その内容を正確に理解することに努めてください。自分の考えや常識的な通念はいったん括弧に入れて、テキストが発するメッセージそのものに忠実に耳を傾けることを心掛けましょう。</p> <p>その次の段階として、哲学的な概念をたんに抽象的な観念や記号としてのみ受け取るのではなく、現実的な事象や実人生における経験に照らし合わせることを通じて、概念に生々しい内実を与える作業をしてください。哲学的な思考が、机上の空論などではないことを身をもって実感されることを願います。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： ハンナ・アーレント 教材名： 『人間の条件』ちくま学芸文庫，1994年 ISBN：4480081569
	この書の問いは実にシンプルです。「私たちは何をしているのか？」という問いです。アーレントは人間の行為を「労働」「仕事」「活動」の三つに分類し、それらの位置付けと意義が、古代ギリシアから近代にいたるまでにどのような変遷をたどってきたかを批判的に分析しています。
参考図書	受講者の知識と関心に応じて適宜紹介します。
履修上のポイント	この書のひとつ特徴として、高度に哲学的な概念についての記述と、具体的な歴史記述や事例の記述が混交しているという点が挙げられます。これら二つはもちろん無関係ではありません。両者がどのようにリンクしているのかに留意しつつ読み進めてください。
レポート課題 1	「労働」「仕事」「活動」という三つの「活動力」の違いについて説明せよ。(さらに可能であれば、それらの位置付けや意義が、時代の変遷とともにどのように変化したかについても説明せよ。) 留意点： あくまでアーレント自身の説明に即して記述すること。
レポート課題 2	『人間の条件』に学んだ知見に依拠しつつ、「近代」(ないし「現代」)という時代の特殊性について論評せよ。 留意点： たんなる「要約」ではない「論考」としてのレポートを書くこと。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： ジョルジョ・アガンベン 教材名： 『ホモ・サケル 主権権力と剥き出しの生』以文社，2003年 ISBN：475310253X
	ギリシア語には「生」を表す語が二つあります。「ビオス」(政治的な生)と「ゾーエー」(生物学的な生)です。アガンベンが直訳的には「聖なる人間」を意味する「ホモ・サケル」に、「剥き出しの生」としての「ゾーエー」の姿を見出し、近代におけるその独特のあり方を多角的に分析します。
参考図書	受講者の知識と関心に応じて適宜紹介します。
履修上のポイント	この書で扱われる題材は多岐にわたりますので、全体を貫く統一的なテーマを見失わないように読み進めてください。また同書中では、フーコー、アーレント、シュミット等、多くの思想家について言及されています。これらの思想家についても可能な限りでよいので勉強してみてください。
レポート課題 1	『ホモ・サケル』で扱われている事例に即する形で、「ビオス」と「ゾーエー」の違いについて説明せよ。 留意点： 一つの事例に限定するか、複数の事例に言及するかは自由とする。
レポート課題 2	「剥き出しの生」が「政治」の領域に入り込んだ時代としての「近代」について、具体的な事例を挙げつつ自由に論評せよ。 留意点： たんなる「要約」ではない「論考」としてのレポートを書くこと。